

令和5年度 自己評価・学校関係者評価

【生徒支援部】

岐阜県立恵那南高等学校 学校番号 50

I 自己評価

1 学校教育目標	社会的・職業的自立に向けた基礎となる資質や能力を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな地域社会人を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の適性を理解し、自らの将来をデザインし、自己実現に向けて自発的に行動できる生徒 多様な人々と協調性をもって豊かな人間関係を築き、他者と協力して課題解決に取り組める生徒 地域との関わりを大切にし、地域の課題を発見し、地域の持続的な発展に貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の個性や能力を开花させ、将来の進路目標を実現するためのカリキュラムの編成とICT活用などによる分かりやすく個に応じた指導の実施 「探究的な学び」や教科学習、対話的な学びによる、コミュニケーション能力と自己表現力の育成 長く広い視野で自分の住む地域のことを考える心を育む教育活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動、部活動、生徒会活動などを通じて、自らの可能性に挑戦したい生徒 人との関わりやつながりを大切にし、仲間と協力しながら主体的に学びたい生徒 地域活動やボランティア活動などに主体的に参加し、地域社会で活躍したいという意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談・特別活動		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>○学校評価アンケート（保護者）【R4→R5】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生としてのマナーや規範意識を身に付けさせるための指導をしている。 AB割合 93%→90% CD割合 3%→6% 個々の生徒の相談に丁寧に応じている。 AB割合 84%→84% CD割合 5%→6% いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 AB割合 74%→72% CD割合 4%→4% <p>○学校評価アンケート（生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間としての基本的モラルやマナーを身に付けさせようと努めている。 AB割合 94%→96% CD割合 3%→1% いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 AB割合 85%→91% CD割合 4%→1% <p>*保護者の評価が若干下がったが、生徒の評価は上がった。今後も生徒とコミュニケーションをとりながら思いを伝えていきたい。</p>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や生活態度の育成をはかる。 コミュニケーション能力の育成を図る。 教育相談を充実させ自己肯定感を持たせる支援を積極的に行う。 いじめの早期発見と生徒への援助を行う。 生徒の意見を取り入れた生徒心得の見直しを行う。 生徒会活動の充実、委員会活動の活性化を図る。 		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒支援部会、教育相談部会等の会議を開催し、職員間の情報共有と連携をはかる。 挨拶、交通安全、校内巡視等への取り組みを全職員で協力して行う。 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒会活動推進、広報活動の展開	(1) 定期的な身だしなみ指導の状況 (2) 公共交通機関でのマナーや登下校時のマナー (3) 生徒の意見等		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・生徒支援部や生徒会を中心に朝の挨拶運動の実施、身だしなみ指導、校内巡回指導	① 基本的な生活習慣は定着したか ② 公共マナーは身に付いたか。	A (B) C D A (B) C D	

<ul style="list-style-type: none"> ・交通指導 ・生徒理解の推進（生徒へのアンケート実施） 	③ 「恕の心」は育成されたか。 ④ 生徒理解はできたか。	A (B) C D A (B) C D
12 成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解に努め、「生徒を支援する」体制作りができた。 ○定期的な身だしなみ指導を通して、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができている。 ○いじめの早期発見と迅速な対応ができた。今後も全職員で生徒への援助支援を行っていききたい。 ○生徒会が主体となって生徒心得の見直しができる。今後も見直しを継続していききたい。 ○生徒会活動やボランティア活動を積極的に行うことができた。今後も継続できると良い。 ▲年々生徒も保護者も多様化する中で、職員数が減少し、雑務等に追われがちになっている面があるが、全職員で生徒や保護者に対して組織的に対応ができるよう、情報共有や共通理解をいっそう高めていきたい。 	総 合 評 価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでと同様、共感的な生徒や保護者の理解に努め、各種の会議、研修会等を通して生徒支援に関する職員の共通理解を高め、実践する。 ・生徒会活動、委員会活動、部活動、各種行事など、生徒一人ひとりが主体的に活動できる場面を多く設定し、自己肯定感や自己有用感をもたせる指導を全職員で行っていく。 ・活気あふれる学校を、生徒・教職員等で作っていく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月24日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒の表情がとても良く、学校が良い方向に変わって来ていることを感じる。
- ・校則の見直しは現代の流れだが、生徒が中心となってそれができた点は高く評価できる。
- ・地域に貢献するボランティア活動に中学生と協力して取り組むことができたので、今後も協力を継続してほしい。
- ・学校教育目標にある「調和のとれた心豊かな地域社会人」を育成するためには、生徒が自覚し、自立することが先決なので、1年生時に徹底して今何が必要かを教育し、2，3年生で学校全体を支え、盛り上げる集団に成長してくれると良い。